

学校におけるスクールカウンセラーの有効な活用に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 教授

鈴木 明美 Suzuki Akemi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード : 学校臨床・スクールカウンセラー・いじめ・不登校支援・居場所づくり・チーム学校・多職種連携

研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

学校においてスクールカウンセラー（以下 SC と略記）は、生徒・保護者の個人面接にとどまらず、教員へのアドバイスや外部機関との連携等、様々な活動をおこない、他職種と協働しながら心理臨床の専門性を学校に還元していくことを期待されています（図1）。しかし、SC は非常勤という勤務回数や時間が限られている中で、予防、早期発見・早期対応、フォローアップなどの支援を、いかに効率よく保護者や教員と協働しておこなっていくのが課題となっています。

SC が学校現場に導入されて30年。SC の多くが学校において重要な機能を果たしている現在、学校の教育活動の中で心理の専門職を“より有効に活用”していくには、能動的な支援の検討が重要となっています。そこで「相談室にいる専門家」から「チーム学校の一員としての専門家」へどう役割を広げていけばよいのかを検討していきたいと思います。

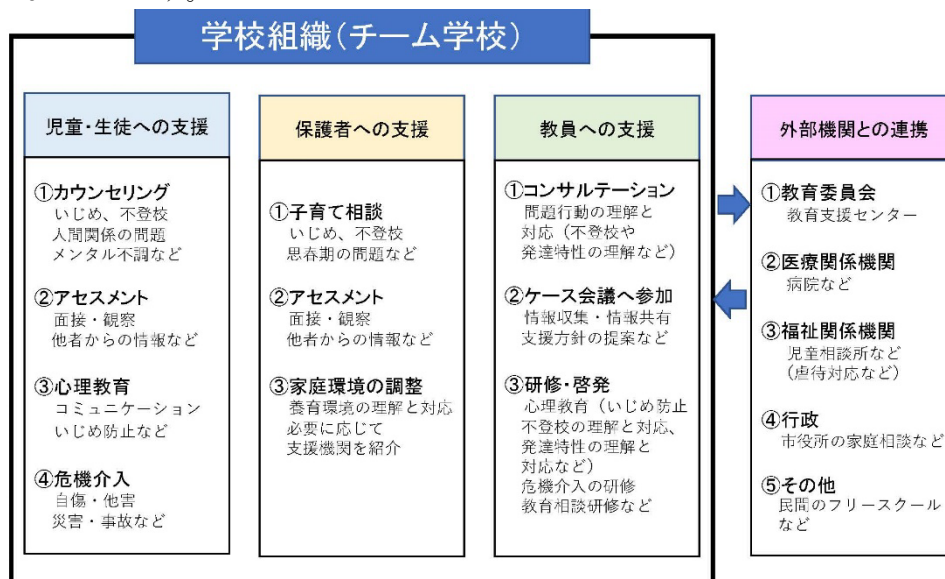


図1. 学校におけるスクールカウンセラーの役割

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

近年、小・中学校が直面している問題は、いじめの増加と様態の多様化、不登校の急増、教員の多忙化・負担増などです。インターネットの普及により SNS でのいじめなどが増えていますが、大人が把握できず早期介入ができていないケースが多くなっています。また不登校の小・中学生は約 35 万人（2023）と過去最多となりましたが、教員の多忙化・負担増により支援を十分に受けられない子どもも増えています。これらの課題に取り組むために、SC は個別相談だけではなく、教員や外部機関と連携しながら学校という組織（チーム学校）の一員として活動することが求められています。

“問題が起きてから”だけではなく、“問題を未然に防ぐ”役割として、心理教育（ストレスマネジメントやソーシャルスキルトレーニングなど）をおこなうことが有効です。教員向けの研修や子ども向けの授業等、個々の学校のニーズに応じた心理支援を提案していきます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】・「いじめ、自死第三者委員会における心理職の役割」

- ・「反社会的行動を示す中学生へのスクールカウンセラーによる支援」
- ・「学校現場で活用できる心理プログラムの検討」